



[弁慶シリーズ]

RD-44SN型 止水栓付戸別給水減圧弁
水道法性能基準適合品 耐圧性能・浸出性能・耐久性能

<製品記号>

RD44SN-FLL1、RD44SN-FML2、RD44SN-FHL3

取扱説明書



流れ・ビューティフル

株式
会社



はじめに

この取扱説明書は、「弁慶シリーズ」止水栓付戸別給水用減圧弁の取扱方法について記述しています。本製品をご使用の前に熟読の上、正しくお使いください。

この取扱説明書は本製品を設置、および使用される方々のお手元に確実に届くようお取りはからい願います。

製品の危険性についての本文中の用語



警告 : 取扱を誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が想定される場合。



注意 : 取扱を誤った場合、使用者が軽い、若しくは中程度の傷害を負う危険が想定される場合、または物的損害・損壊の発生が想定される場合。

ご使用にあたっての警告・注意事項

本製品のご使用にあたり、人身の安全および製品を正しく使用するために必ずお守りください。



警告

- 本製品を配管取付け後、流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。
※流体が吹出した場合、周囲を汚したり、温水に使用している場合、やけどをする恐れがあります。
- 二次側圧力の設定、調整時には、工具や手袋などを使用して行ってください。
※温水に使用している場合、キャップや調節ネジなどが熱くなっていますので、不用意に触れた場合、やけどをする恐れがあります。
- 製品にはむやみに触れないようにしてください。
※温水に使用している場合、やけどの恐れがあります。
- 本製品の分解にあたっては、ボール止水栓(または一次側の供給弁)を止め、減圧弁内の流体を徐々に排出して、圧力が零になっていることを確認すると共に、温水に使用している場合は、本体を素手でさわられるまで冷やしてから行ってください。
※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、温水に使用している場合、やけどをする恐れがあります。



注意

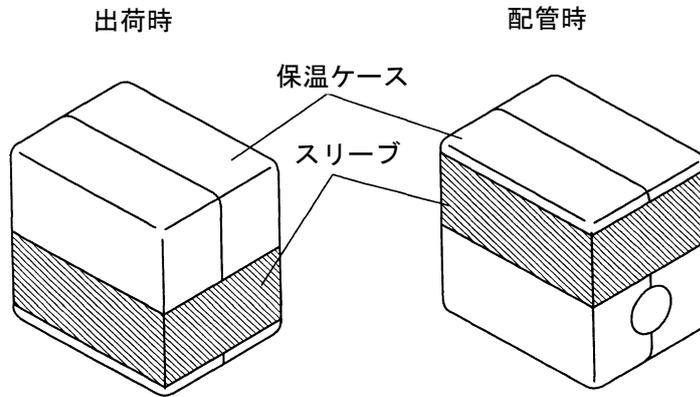
- 本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方(設備・工事業者の方など)が実施してください。一般のご使用者は分解しないでください。水の出が悪い、流れが不安定などの異常がある場合は、設備・工事業者または、当社に処置を依頼してください。
- 本製品を使用する前に製品についている銘板の表示、および1頁の仕様を確認してください。使用条件が仕様を満足することを確認の上、製品をご使用ください。
- 本製品の機能・性能の確認のため、日常点検、定期点検を実施してください。

開梱（製品の確認）・保管



注意

- 本製品を梱包しているケースは保温ケースとして、またスリーブはケースの固定用としてご使用ください。



（１）製品の梱包内容の確認

梱包箱に次の部品が収納されていることを確認してください。

収納部品	備考
保温ケース	保温ケース内にて下記別表の部品を収納
止水栓	外装箱内に別梱包で収納

保温ケース内には次の部品が収納されていることを確認してください。

収納部品	数量	備考
減圧弁	1	
ガスケット	1	
テストガグ	1	

※出口側ユニオン継手は別途手配となります。

（２）開梱後の保管

保管する場合は塵埃などが入らないように、保温ケースに入れて、雨水などがかからない場所で保管してください。

目次	頁
1. 製品用途、仕様、構造、作動	1
(1)用途	1
(2)仕様	1
(3)構造	2
(4)作動	3
2. 設置要領	4
(1)配管例略図	4
(2)要領	4
(3)通水・耐圧試験(居室内)	5
3. 運転要領	6
(1)試運転(圧力確認)	6
(2)運転	7
(3)運転停止	7
4. 保守要領	8
(1)日常点検	8
(2)定期点検	8
(3)消耗部品と交換時期	8
(4)故障の原因と処置	9
5. 廃却	9
○用語の説明	10
○分解・組立要領	11
(1)分解	11
1)分解工具および消耗部品	11
2)分解	12
(2)各部品の清掃および処置方法	14
1)前準備	14
2)各部品の清掃および処置方法	14
(3)組立	15
○サービスネットワーク	

1. 製品用途、仕様、構造、作動

(1) 用途

「弁慶シリーズ」RD-44SN型止水栓付戸別給水用減圧弁は、集合住宅(マンション)などの各戸の給水・給湯ラインに設置し、最適な給水・給湯圧力を供給する用途に使用されます。

(2) 仕様 (水道法性能基準適合品)

名称		戸別給水用減圧弁		
★型式		RD-44SN型L	RD-44SN型M	RD-44SN型H
製品記号		RD44SN-FLL1	RD44SN-FML2	RD44SN-FHL3
☆呼び径		20		
☆適用流体		水道水・温水		
☆流体温度		5~90 °C(管端コア使用の場合 5~40 °C)		
☆一次側適用圧力		1.0 MPa以下		
★二次側調整圧力範囲		0.05~0.12 MPa	0.11~0.23 MPa	0.2~0.3 MPa
☆最大減圧比		10:1		
☆弁前後の最小差圧		0.02 MPa		
定格流量		50 L/min		
耐圧性	製品一次側	1.75 MPa		
	製品二次側	0.36 MPa(テストガグ使用の場合 1.75 MPa)		
端接続		入口側: Rc3/4、出口側: G1		
材質		本体(CAC406) ダイヤフラム・ディスク(耐塩素EPDM)		
付属品		保温ケース・テストガグ		

※管端コア内蔵も製作します。

記号	設定圧力調整範囲(MPa)	記号	設定圧力(MPa)
L	0.05 ~ 0.12	1	0.08
M	0.11 ~ 0.23	2	0.20
H	0.20 ~ 0.30	3	0.25

注意

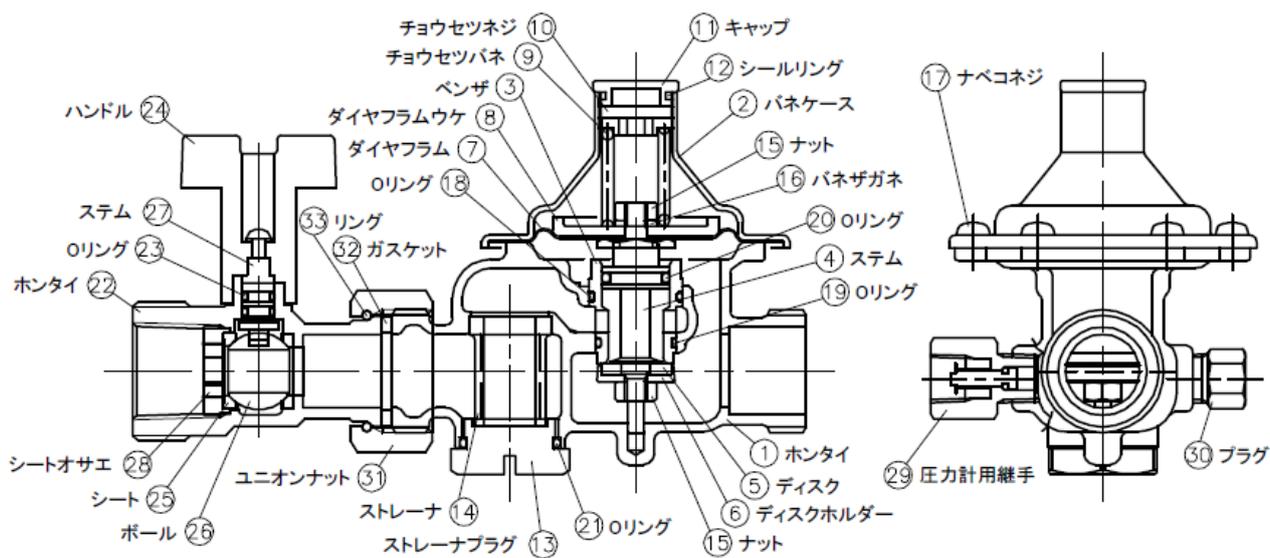
- 製品についている銘板表示内容と注文された型式の上記仕様 ★ 部分を確認してください。
- 上記仕様の ☆ 部分が使用条件を満足することを確認してください。
- 上記仕様を超えての使用はできません。

銘板(図はRD-44SN型Mを示します。)



(3) 構造

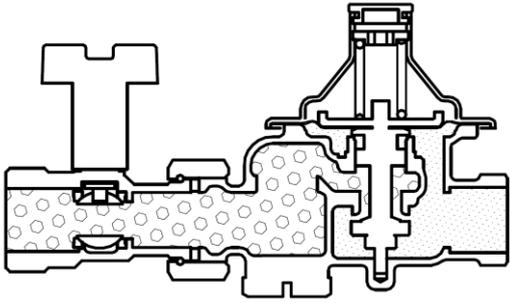
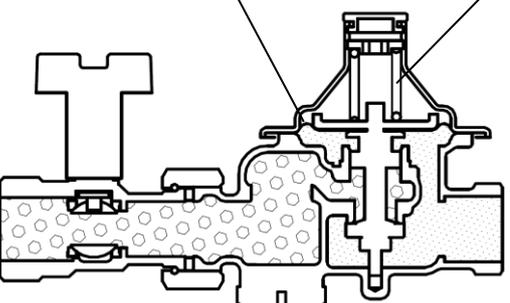
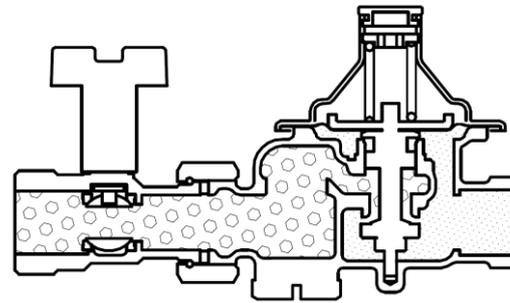
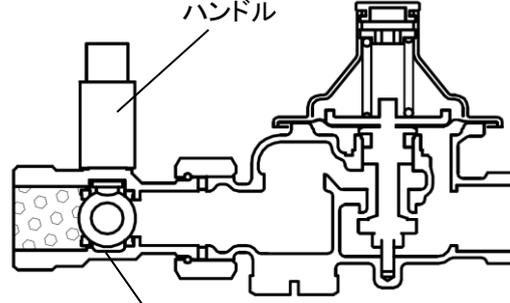
RD-44SN型



※注) 部品名・部品番号は、納入品図面と異なる場合があります。部品交換等の手配の際には、
部品名・部品番号は、納入品図面をもとに指示してください。

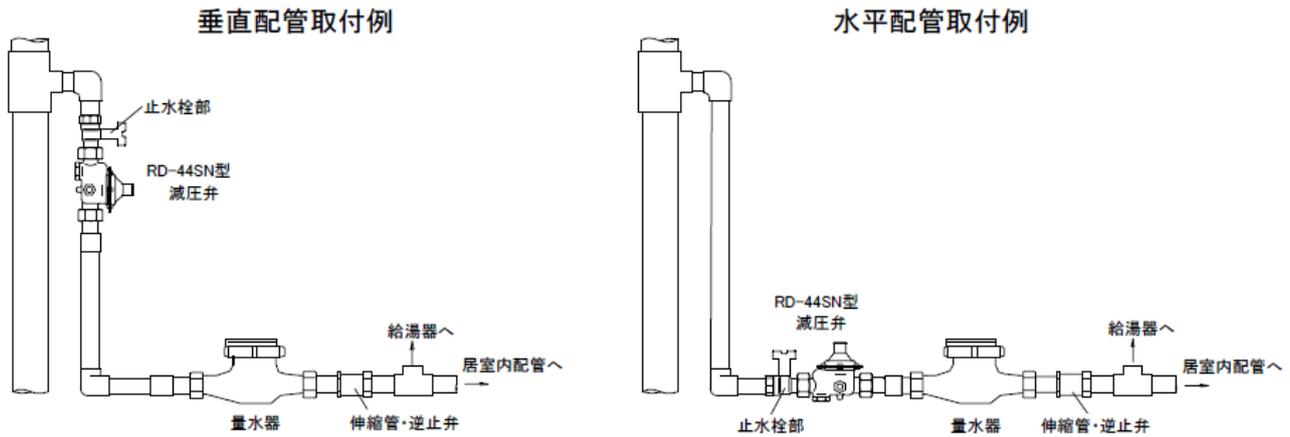
機能については「次頁：(4) 作動」を参照してください。

(4) 作動

<p>開弁</p> 	<p>減圧弁は圧力調整された状態では弁開しており、通水すると一次側の流体は減圧され、二次側に流れます。</p>
<p>閉弁</p>  <p>ダイヤフラム</p> <p>チョウセツバネ</p>	<p>二次側の止弁を閉にすると二次側に減圧されて流れ出た流体の一部は、ダイヤフラム下部に充填しダイヤフラムを押し上げる力として働き、チョウセツバネ荷重とつり合って二次側圧力を一定に保ちます。</p>
<p>開弁</p>  <p>ダイヤフラム</p> <p>チョウセツバネ</p>	<p>再び二次側の止弁を開けて流体を流すと、二次側圧力は下がりチョウセツバネ荷重がダイヤフラムに作用する上向きの力に打ち勝って弁開の状態となり、二次側には減圧された流体が流れ出て圧力を一定に保ちます。</p>
<p>【止水】</p>  <p>ハンドル</p> <p>ボール止水栓</p>	<p>入口側のボール止水栓のハンドルを閉止(90°右回転)することにより、給水が停止します。</p>

2. 設置要領

(1) 配管例略図



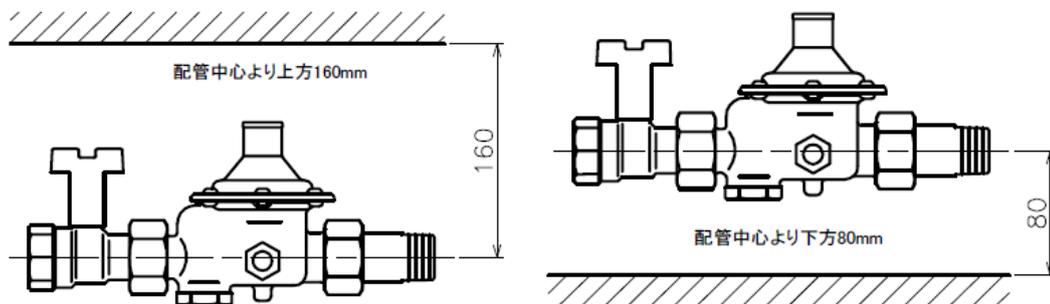
(2) 要領



注意

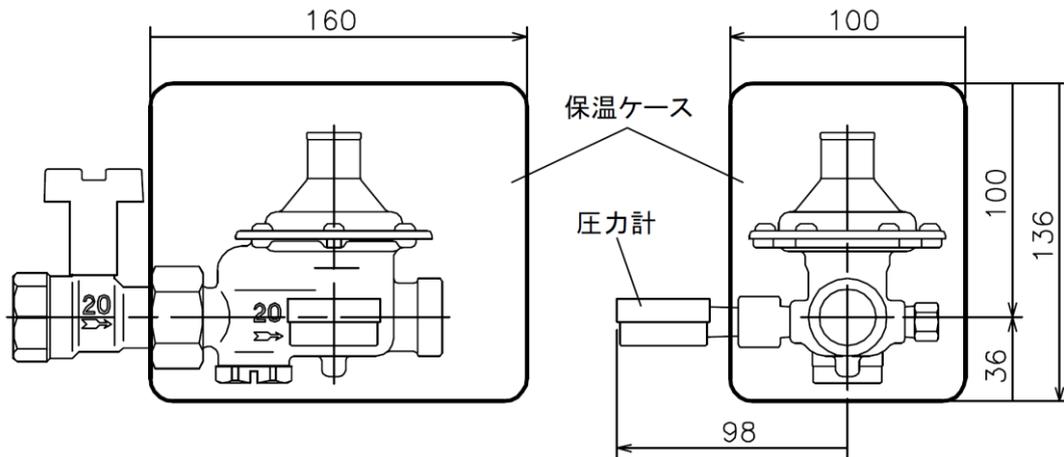
- 配管接続に使用するシールテープ・液状シール剤など、配管内に異物が入らないよう注意してください。
※異物の混入により、減圧不能やストレーナの目詰まりによる水量不足の原因となります。
- 製品を取付ける前に、配管の洗浄を充分に行ってください。
※配管の洗浄が不十分な場合、ゴミ噛みによる減圧不能やストレーナの目詰まりによる水量不足の原因となります。
- 製品を配管に接続する際には、製品の流れ方向を示す矢印と流体の流れ方向を合わせて取付けてください。
※誤った取付けをした場合、製品の機能を発揮できません。
- 製品には、配管の荷重や無理な力・曲げ、および振動がかからないよう配管の固定や支持をしてください。
※配管の固定や支持をしない場合、製品の損傷や作動不良などの原因となります。

- 1) 取付姿勢は自由です。ただし、ストレーナプラグが上を向く姿勢での使用は避けてください。
- 2) 分解・点検のため、減圧弁の上下の空間は、下記の寸法以上確保してください。



- ※上図は出口側オスユニオン継手 (UD-1PN) を接続した図となります。
- ※出口側ユニオン継手は別途手配となります。

保温ケースの実寸法(圧力計付)



(3) 通水・耐圧試験(居室内)



注意

減圧弁への通水前に、立て管(主管)の洗浄を充分に行ってください。

管内の洗浄が不十分な場合、ゴミ噛みによる減圧不能やストレーナの目詰まりによる水量不足の原因となります。

[通水前]

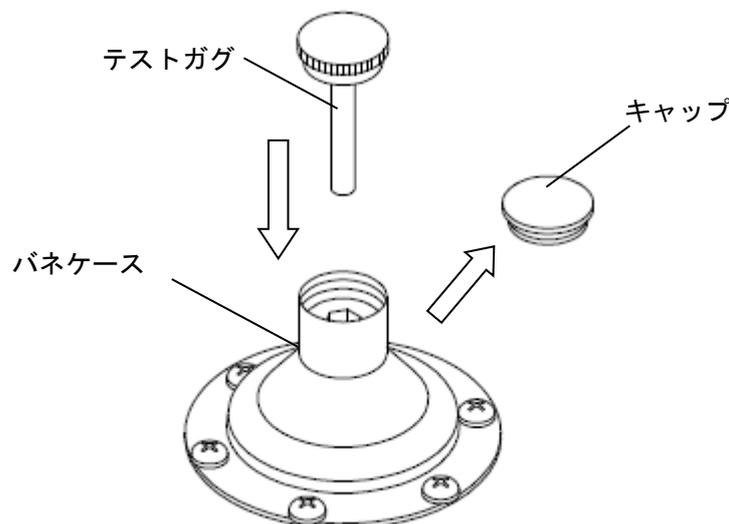
キャップを取外し、保温ケースに収納されているテストガグをバネケースにねじ込みます。

- 通水後加圧された状態では、テストガグは最後までねじ込むことができませんので、通水前にねじ込んでください。尚、テストガグをねじ込んだ状態では、減圧弁は全開となり減圧機能は停止します。
- 圧力計(オプション)は最大目盛0.5MPaのため、耐圧試験の間は取外しておいてください。

[通水・耐圧試験]

- テストガグをねじ込んだ状態で通水・耐圧試験を行ってください。
耐圧試験圧力はテストガグをねじ込んだ状態で、1.75MPa以下としてください。
- 耐圧試験終了後、水圧を下げた後テストガグを取外し、キャップをねじ込みます。
- 通水・耐圧試験の終了後に給水量が少ない場合などにはストレーナを点検し、清掃を行なってください。
- 取外したテストガグは、保温ケースに収納し保管ください。

※止水栓の出荷時は開状態ですが、設置時の状態を確認してから通水・耐圧試験を行ってください。



3. 運転要領



警告

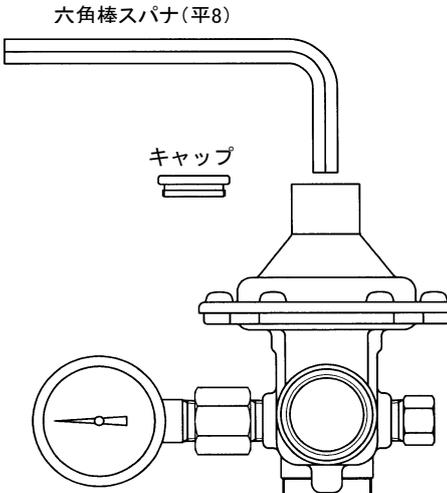
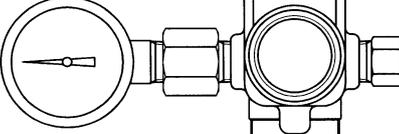
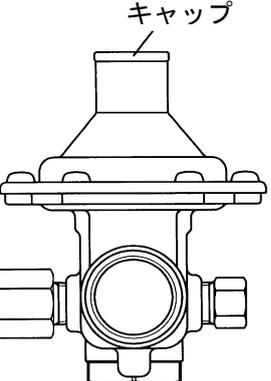
- 本製品を配管取付け後、流体を流す前に、配管末端まで流体が流れても危険のないことを確認してください。
※流体が吹出した場合、周囲を汚したり、温水に使用している場合、やけどをする恐れがあります。
- 二次側圧力の設定、調整時には、工具や手袋などを使用して行ってください。
※温水に使用している場合は、キャップや調節ネジなどが熱くなっていますので、不用意に触れた場合、やけどをする恐れがあります。
- 製品にはむやみに触れないようにしてください。
※温水に使用している場合は、やけどの恐れがあります。

(1) 試運転(圧力確認)

	手順	要領	注記
試 運 転	1	<p>減圧弁を接続後、ボール止水栓(または一次側止弁)を徐々に開き減圧弁の設定圧力を確認します。</p> <div style="text-align: center;"> </div> <p>圧力計を必要以上にねじ込むと、圧力計用継手に亀裂が生じる場合がありますので、次の要領で接続してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 圧力計は、弊社のオプション品をご使用ください。(圧力計用継手の接続ねじ部はJIS Rc 1/4です。圧力計のねじ: 管用平行ねじ(JIS G 1/4)のものは、絶対使用しないでください。) 2) 圧力計は、耐圧試験終了後水圧を下げた後に取付けてください。(圧力計を取付けたまま高圧で耐圧試験を行うと、破損による外部漏洩の可能性あります。) 3) 圧力計の取付けは、ねじ部にシールテープを2~3巻し、手でねじ込める所まで強めにねじ込んでください。(圧力計が約2.5回転ねじ込まれた時点で、圧力計に導水されます。) 4) その後、工具(スパナ等)で、約1回転程度増し締めしてください。 <u>※手締めと工具での締めを含め、ねじ込みの回転数は最大で4.5回転程度です。(圧力計のねじが3山程みえる程度。)</u> 	<p>テストガグを取外してあることを確認してください。</p> <p>圧力計(オプション)を減圧弁の圧力計用継手にねじ込むことで、二次側圧力の確認ができます。</p> <p>* 圧力計の取付け・取外しは通水状態でも行えます。</p>

次頁へ続く

前頁からの続き

手順	要 領	注 記	
減圧弁は、所定の設定圧力(銘板に表示)に調整して出荷しておりますが、圧力調整が必要な場合は次の手順で行います。			
圧 力 調 整	2	<p>キャップを取外します。(左回転)</p> <p>六角棒スパナ(平8)</p>  <p>キャップ</p>	
	3	 <p>設定圧力を上げる場合はチョウセツネジを右回転、下げる場合は左回転させます。</p>	<p>圧力計を見ながら行います。 圧力計を下げる場合は、水栓などで圧力を逃がして止めてを繰返しながらいいます。</p>
	4	<p>調節後はキャップを取付けます。</p>  <p>キャップ</p>	<p>キャップは手締めによって確実に締め付けてください。</p>

* 以上で試運転(圧力確認)は完了です。試運転(圧力確認)で異常がある場合は、「9頁:(4)故障の原因と処置」を参照し処置を行ってください。

(2) 運転

試運転終了後、そのまま使用(通常運転)できます。

(3) 運転停止

保守点検時の分解やストレーナの清掃時にはボール止水栓(または一次側止弁)を閉止します。

4. 保守要領



警告

本製品の分解にあたっては、ボール止水栓(または一次側の供給弁)を止め、減圧弁内の流体を徐々に排出して、圧力が零になっていることを確認すると共に、温水に使用している場合は、本体を素手でさわられるまで冷やしてから行ってください。

※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、温水に使用している場合、やけどをする恐れがあります。



注意

- 本製品の機能・性能の確認のため、日常点検、定期点検を実施してください。
- 本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方(設備・工事業者の方など)が実施してください。一般のご使用者は分解しないでください。水の出が悪い、流れが不安定などの異常がある場合は、設備・工事業者または、当社に処置を依頼してください。
- 長期間運転休止後の再運転時には、機能・性能を確認するため、作動点検を実施してください。

(1) 日常点検

点検項目	処置
水の出具合	「9頁:(4)故障の原因と処置」参照

(2) 定期点検

本製品の機能・性能を維持するため、定期的に分解点検を実施してください。

点検周期	1回/3~4年
主な点検項目	①ストレーナの目詰まり
	②ダイヤフラムの損傷
	③ステムの動き
	④ディスクの当り面

(3) 消耗部品と交換時期

消耗部品は使用頻度、使用条件などにより耐用年数は異なりますが、交換時期の目安は下表の通りです。

部品名	部品番号	交換時期
ダイヤフラム	⑦	3~4年
ディスク	⑤	〃
リング	⑩ ⑱ ⑳ ㉑	〃
ストレーナ	⑭	〃
ガスケット	⑳	〃

(4) 故障の原因と処置

故障の状態、原因を確認し、処置を行います。

○印は試運転時にも異常として発生する原因の要素

故障状態		原因	処置
1. 水が流れない (水量が少ない)	○	スケール・水あかななどによる摺動部のセリ	「分解・組立要領」参照
	○	異物によるストレーナ ⑭ の目詰まり。	
		設定圧力が低い。	設定圧力の再調整を行う。 「6頁：(1)試運転(圧力確認)手順2～4」参照
2. 二次側圧力上昇	○	ディスク ⑤、ベンザ ③ の当り面にゴミが噛み込み、完全閉止ができない。	「分解・組立要領」参照
		ダイヤフラム ⑦ やオリング ⑳ が破損または、磨耗している。	
		スケール・水あかななどによる摺動部のセリ	
		分解点検時の内部部品(ディスク ⑤、ステム ④、ダイヤフラム ⑦ など)の締付不良。	確実に締付ける。
3. 外部漏洩			
(1)バネケース、ダイヤフラム部からの漏洩		バネケース ② の締付不良。	ナベコネジ ⑰ を一旦緩め、対角上に均一に締付ける。
(2)ストレーナプラグからの漏洩		オリング ㉑ の破損。 ストレーナプラグ ⑬ の締付不良	オリング ㉑ を交換する。 確実に締付ける。
(3)圧力計ネジ部からの漏洩	○	圧力計ネジ部 ㉙ のシールが不完全である。	圧力計ネジ部 ㉙ にシールテープを巻き、再度締付ける。
(4)ユニオンナット部からの漏洩	○	ガスケット ㉚ の破損またはユニオンナット ㉛ が緩んでいる。	ガスケット ㉚ に損傷があれば交換し、ユニオンナット ㉛ を締付ける

5. 廃却

「弁慶シリーズ」戸別給水用減圧弁を廃却する際は、チョウセツネジ ⑩ を左回転させ、チョウセツバネ ⑨ の荷重を零の状態としてください。

用語の説明

用語	定義
減圧弁	通過する流体そのものの圧力エネルギーにより、弁体の開度を変化させ一次側圧力から所定の二次側圧力に減圧する自動調整弁。
設定圧力	流量0における二次側圧力。
一次側圧力	本体内の入口側圧力、または本体に近い入口側配管内の圧力。
二次側圧力	本体内の出口側圧力、または本体に近い出口側配管内の圧力。
最大減圧比	一次側圧力と二次側圧力との最大の圧力比。
最小差圧	一次側圧力と二次側圧力との差圧の最小値。
定格流量	一次側圧力を一定とし、所定のオフセット内において保証し得る最大流量。
オフセット	一次側圧力を一定に保持した状態で、流量0から定格流量まで漸次増加させた場合に变化する二次側圧力と設定圧力の差。
本体耐圧	本体に水圧を加え、破壊、き裂、にじみなどの欠陥が生じない圧力の最大値。

分解・組立要領

(1) 分解



警告

本製品の分解にあたっては、ボール止水栓(または一次側の供給弁)を止め、減圧弁内の流体を徐々に排出して、圧力が零になっていることを確認すると共に、温水に使用している場合は、本体を素手でさわられるまで冷やしてから行ってください。

※流体の吹出しにより、周囲を汚したり、温水に使用している場合、やけどをする恐れがあります。



注意

- 本製品の分解にあたっては、熟練した専門の方(設備・工事業者の方など)が実施してください。
一般のご使用者は分解しないでください。
- 分解時には内部の水が出ますので、容器で受けてください。
- 分解時に、部品を落下させないように注意してください。また、分解部品は柔らかい布などの上に置き、傷をつけないようにしてください。

1) 分解工具および消耗部品

分解前に必要な工具、消耗部品などあらかじめ用意します。

工具名称	呼び	工具使用箇所	部品番号
六角棒スパナ	8	チョウセツネジ	⑩
スパナまたは めがねレンチ	10	ナット	⑮
	19	ステム	④
	38	ユニオンナット	⑳
スパナ	30	ストレナープラグ	⑬
モンキレンチ	250		
ねじ回し			
十字ねじ回し		ナベコネジ	⑰

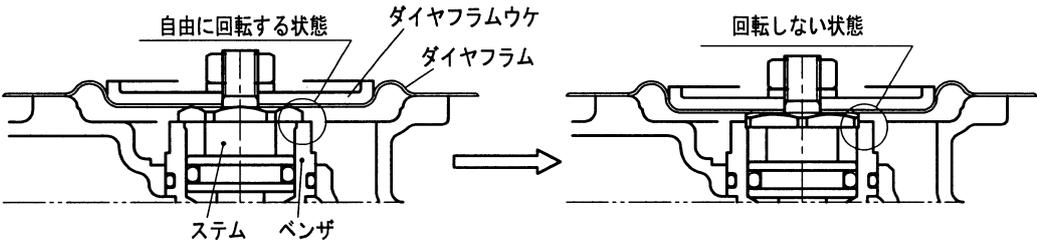
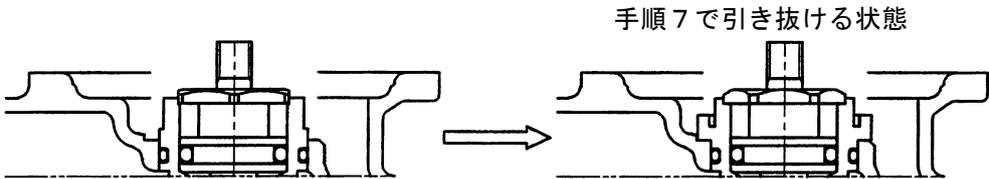
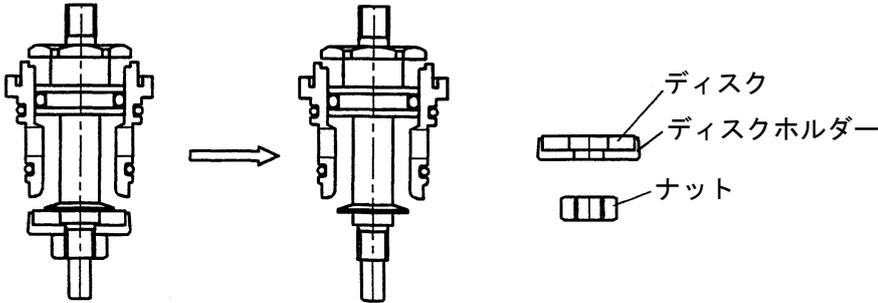
消耗部品

部品名	部品番号	要求先
ダイヤフラム	⑦	(株)ベン
ディスク	⑤	〃
Oリング	⑱ ⑲ ⑳ ㉑	〃
ストレナー	⑭	〃
ガスケット	㉒	〃

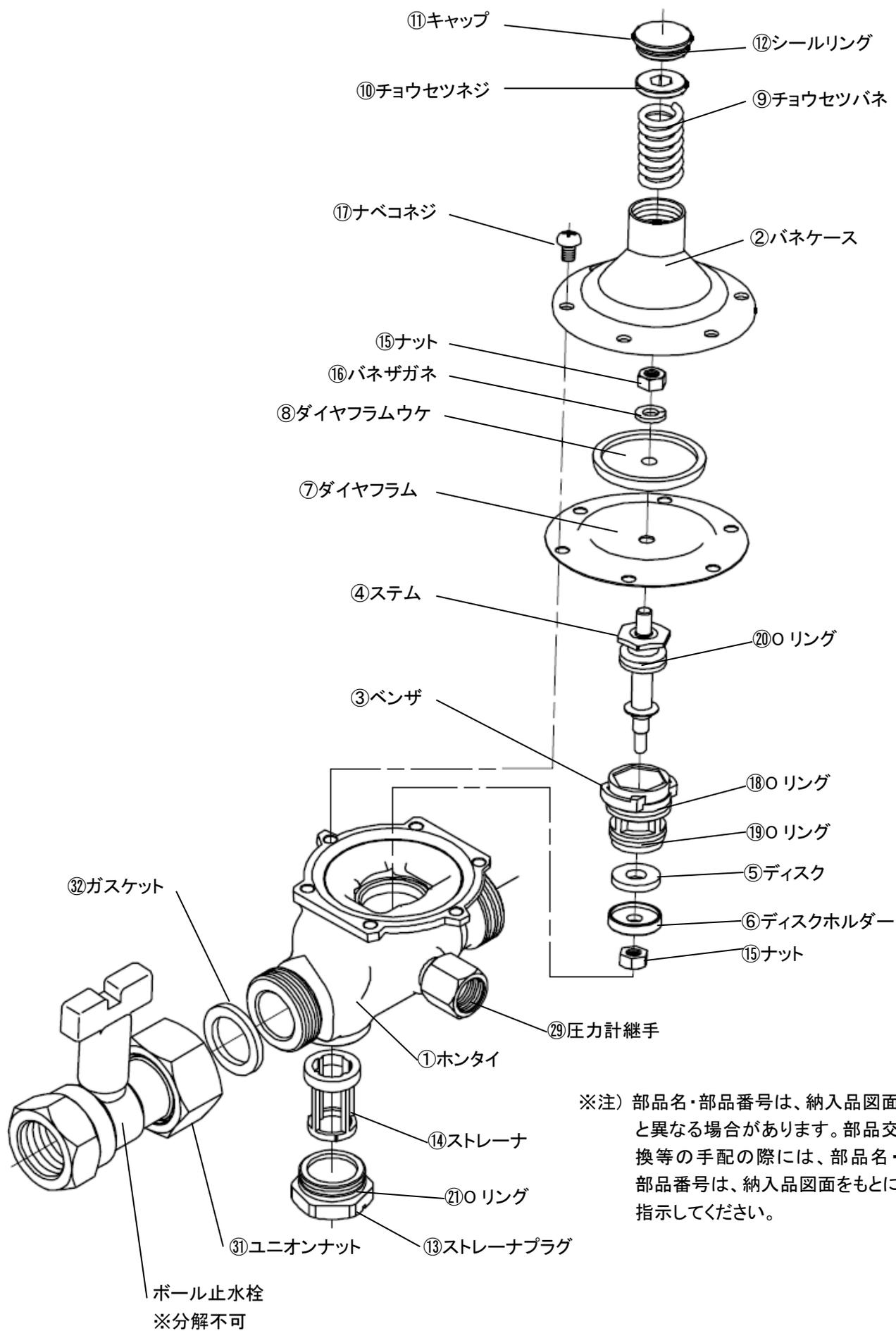
消耗部品の交換時期は「8頁:(3)消耗部品と交換時期」を参照してください。

2) 分解

(13頁 分解図 参照)

手順	分解要領
1	キャップ ⑪ を緩め取外します。(左回転)
2	チョウセツネジ ⑩ を左回転させ、チョウセツバネ ⑨ の荷重が零になるまで緩めます。
3	ナベコネジ ⑰ を緩めて取外し、バネケース ② 、チョウセツバネ ⑨ を取外します。
4	<p>ダイヤフラム ⑦ 、ダイヤフラムウケ ⑧ が自由に回転する状態から、上部より軽く押し回しを行ない、回転しない場所へ押し込みます。 (ベンザ ③ の六角穴部へステム ④ の六角外形部が入込んだ状態です。)</p> 
5	手順4の状態を保持し、上部より軽く押した状態でナット ⑮ を緩め取外し、ダイヤフラム ⑦ 、ダイヤフラムウケ ⑧ 、バネザガネ ⑯ を取外します。
6	<p>ベンザ ③ の六角穴部へステム ④ の六角外形部が入込んだ状態で、ステム ④ の六角外形部に『スパナ:呼び19』を使用してベンザ ③ を左回転させます。(約80°)</p> 
7	<p>ステム ④ 、ベンザ ③ を引き抜きます。 (ダイヤフラムウケ ⑧ をナット ⑮ で仮止めすると容易に行なえます。) (この時、ステム ④ を上下させてスムーズに動かか確認します。動きが悪い場合は必ず処置が必要です。「15頁:(2) 2)手順3」参照。)</p>
8	<p>ナット ⑮ を緩めて取外し、ディスク ⑤ 、ディスクホルダー ⑥ を取外します。</p> 
9	ストレーナプラグ ⑬ を緩めて取外し(左回転)、ストレーナ ⑭ を取外します。

分解図



(2) 各 부품の清掃および処置方法

1) 前準備

清掃前に必要な用具をあらかじめ用意します。

用具	ウエス(柔らかい布など)
	研磨布紙(#1000程度)
	潤滑剤(シリコンオイル)

2) 各 部 品 の 清 掃 お よ び 処 置 方 法

手順	要 領	
1	各部品を研磨布紙、ウエスなどで清掃します。	
2	ダイヤフラム ⑦ の損傷が激しい場合は、新品と交換します。	
3	<p>リング ⑳ の磨耗、損傷が激しい場合は、新品と交換します。</p> <p>ステム ④ の動きが悪い場合は、リング ⑳ を取外し、柔らかい布などでよく清掃した後、潤滑剤(シリコンオイル)を塗布し、スムーズに動くようにします。</p>	<p>The diagram shows a vertical stem assembly. A label 'リング' (Ring) points to a ring-like component on the stem. Another label '塗布' (Coating) points to the surface of the stem where the ring is located.</p>
4	<p>ディスク ⑤ の当り面(流体をシールする接触部分)に深い傷がある場合は新品と交換します。</p>	<p>The diagram shows a small rectangular disk with a label '当り面' (Contact surface) pointing to its top surface.</p>
5	リング ⑱、㉑、㉒の変形、損傷が激しい場合は、新品と交換します。	
6	<p>ストレーナ ⑭ に付着しているゴミ、スケールなどを除去します。</p> <p>損傷などがあれば、新品と交換します。</p>	

注記: 損傷部品の交換の要否が判断できない場合は、(株)ベンに相談ください。

(3) 組立



注意

組立にあたっては、部品などは確実に組付け、ナベコネジ ⑰ は片締めとならないように対角上に均等に締付けてください。

(13頁 分解図 参照)

手順	要 領	注 記
1	損傷が激しい部品は新品と交換します。	(株)ベンに相談する。
2	Oリング ⑳ を組込んだステム ④ をOリング ⑱、㉑ を組込んだベンザ ③ の上部より挿入します。 ステム ④ 下部からディスク ⑤、ディスクホルダー ⑥ を組込み、ナット ⑮ で締付けます。	Oリング ⑱、㉑ にシリコンオイルを塗布します。 締付けトルク: 2N・m
3	手順2で組付けた部品をホンタイ ① の上部より挿入します。 ベンザ ③ の六角穴部へステム ④ の六角外形部が入込んだ状態とし、ステム ④ の六角外形部に『スパナ: 呼び19』を使用してベンザ ③ を右回転(約80°)させ固定します。	
4	手順3の状態を保持し、ステム ④ 上部からダイヤフラム ⑦、ダイヤフラムウケ ⑧、バネザガネ ⑯ を組込み、ナット ⑮ で締付けます。	締付けトルク: 3N・m
5	ダイヤフラムウケ ⑧ にチョウセツバネ ⑨ を乗せ、バネケース ② とホンタイ ① でダイヤフラム ⑦ を挟み込むようにしてナベコネジ ⑰ を締付けます。	ナベコネジ ⑰ は片締めとならないように対角上に均等に締付けます。
6	Oリング ㉒ を組込んだストレーナプラグ ⑬ にストレーナ ⑭ を挿入し、ホンタイ ① にねじ込みます。(右回転)	

以上で組立は終了です。組立後は「6頁: (1) 試運転(圧力確認)」を参照し、圧力調整を実施してください。

製品及び本取扱説明書に関するお問合せは下記へお願いします。

サービスネットワーク

担当部署	サービス区域	
☆東京営業所	東京、神奈川	品質保証課 TEL03 (3759) 1230
☆西関東営業所	神奈川、東京、山梨	
☆東関東営業所	千葉、茨城	
☆北関東営業所	埼玉、栃木	
☆関越営業所 新潟出張所	群馬、長野、新潟	
☆仙台営業所	宮城、山形、福島	
☆盛岡営業所	岩手、青森、秋田	
☆札幌営業所	北海道全域	
☆大阪営業所 岡山出張所	大阪、京都、奈良、和歌山、兵庫、岡山、鳥取、滋賀、三重、四国全域	
☆名古屋営業所 静岡出張所	愛知、岐阜、三重、静岡	
☆金沢営業所	石川、富山、福井	
☆広島営業所	広島、島根、山口	
☆福岡営業所 沖縄出張所	九州全域、沖縄	

本 社

〒146-0095 東京都大田区多摩川2-2-13

TEL. 03(3759)0170

FAX. 03(3759)1414

○ 東日本営業部

- ☆ 東京営業所 TEL. 03 (3759) 0171
- ☆ 西関東営業所 TEL. 042 (772) 8531
- ☆ 東関東営業所 TEL. 043 (242) 0171
- ☆ 北関東営業所 TEL. 048 (663) 8141
- ☆ 関越営業所 TEL. 027 (252) 4248
新潟出張所 TEL. 025 (282) 3833
- ☆ 仙台営業所 TEL. 022 (287) 6211
- ☆ 盛岡営業所 TEL. 019 (697) 7651
- ☆ 札幌営業所 TEL. 011 (875) 8007

○ 西日本営業部

- ☆ 大阪営業所 TEL. 06 (6325) 1501
岡山出張所 TEL. 086 (902) 3060
- ☆ 名古屋営業所 TEL. 052 (411) 5840
静岡出張所 TEL. 054 (275) 2705
- ☆ 金沢営業所 TEL. 076 (261) 6989
- ☆ 広島営業所 TEL. 082 (230) 4511
- ☆ 福岡営業所 TEL. 092 (291) 2929
沖縄出張所 TEL. 098 (860) 1660

○ 工場

- 岩手工場 TEL. 019 (697) 2425
- 相模原工場 TEL. 042 (772) 7341